

1998年8月28日(金) 日本経済新聞 ひとニュース  
若手ビジネスコンサルタント / 手本「狙い」起業家に転身

若手ビジネスコンサルタントの企業家への転身が盛んだ。いずれもビジネスを創造するという魅力にひかれコンサルタントを志した人たちが、その仕事の過程で、新しいビジネスを育むことに対する日本の経済社会の未熟さなどが立ちはだかってくる」と痛感したことが転身のきっかけになっているようだ。まずは自分の手で成功事例を」と、自らの事業に汗を流している。

「コンサルティングでいい計画を提案しても、顧客企業の経営規模が小さいと、それを実行する人材や時間のゆとりがない」。物流業務全般をメーカーなどから受託する日本ロジファクトリー(大阪市)の青木正一社長(33)も、こんな動機から2年前の夏、企業に踏み切った。

もともと「起業家」志向は強く、大学卒業後、一度はトラック運転手をしながら資金づくりを試みた。しかし、「お金をためるのはキリがない」ことから、企業を疑似体験できるコンサルタントになることにし、89年に船井総合研究所に入所した。

7年余りのコンサルタント生活の後半はドライバー時代の経験を生かした物流のコンサルティングで頭角を表したが、提案した内容を実際に手伝うことのできない会社方針が障害になることが増え、「どうせなら昔の夢も実現させよう」と、効率的な物流の提案とその業務受託を同時にできる新ビジネスを立ち上げることにしたという。